



KYOTO UNIVERSITY

ANNUAL REPORT

アニュアルレポート2024



Contents

- 1 目次
- 2 総長メッセージ
- 3 数字で見る京都大学
- 5 教育
- 7 研究
- 9 ダイバーシティ、エクイティ&インクルージョン
- 11 産官学連携
- 13 グローバル展開
- 14 医学部附属病院
- 15 課外活動
- 17 財務情報
- 21 同窓会・基金



総長メッセージ 京都大学をご支援いただいている皆様へ

～京都大学の原点に立ち返り、研究大学としてのあり方を問い直す～

「自由の学風」のもとに

大学の使命は、新しい知的価値の創生とそれを担っていく人材育成を通じて公共の利益に資することにあります。本学は、「地球社会の調和ある共存に貢献する」ことを基本理念として、「自由の学風」のもと、125年余の教育と研究の歴史を刻んできました。

平成29年には文部科学大臣による指定国立大学法人の指定を受け、「自由で独創的な知の創造を支える柔軟な研究組織体制」、「次世代を担う若手研究者の育成と若い頭脳の国際循環」、「新しい人文・社会科学の創出と社会への積極的な発信」、「ボトムアップの議論に基づく実効的大学運営と財政基盤の強化」の四つの大きな目標を掲げ、その具体化に向けてさまざまな施策を推進しています。

令和2年に第27代総長に就任した私は、真に足腰の強い研究大学を目指し、組織のインフラの強化と改革を進めるための具体的施策として、「任期中の基本方針―世界に輝く研究大学を目指して―」を公表しました。これを着実に実行していくことにより、本学の教育と研究の誇るべき伝統を未来に向けて確実に発展させていく覚悟を新たにしています。

京都の地で

「九重に 花ぞ匂へる 千年の 京に在りて」、京都大学学歌の冒頭の句です。

京都大学は、明治30(1897)年、「政治の中心から離れた京都の地に、自由で新鮮なそして本当に真理を探究し学問を研究する学府としての大学を作ろう」という機運の中で、歴史と伝統の地であるこの京都に創立されました。豊かな自然と文化芸術に恵まれた京都は、ベンチャー発祥の地でもあり、その研究成果で全国的・世界的に貢献する数多くの革新的企業が誕生し発展してきました。このアントレプレナーシップの伝統は今も強く息づいており、学生や研究者にとっても非常に貴重で重要なアドバンテージだと言えます。

私達は、この京都の地で地域の皆様と共にあり、地球社会の調和ある共存に向けて一層貢献してまいります。

最後に

この『京都大学アニュアルレポート2024』では、「任期中の基本方針」に沿った取組と実績を詳しく紹介し、また、大学運営の基盤となる財務情報も掲載しています。大学の理念や歴史、基本的な方針、注力している取組や、学生・研究者の活動等を幅広く紹介し、さまざまな基本データも掲載している『京都大学概要2024』と併せてご覧いただけますと、京都大学の魅力をより知っていただけるかと存じます。

日頃本学の活動をご支援いただいている皆様におかれましては、本学の目標とその達成に向けた取組をご理解いただき、引き続き温かいご支援とご協力を賜りますよう心からお願い申し上げます。

令和6年9月
京都大学総長

漆 長博

数字で見る京都大学



1897

年

1897(明治30)年6月18日 創立
(日本で2校目の帝国大学として京都帝国大学創設)
2022(令和4)年には、創立125周年を迎えました



学生数
Students

22,600

名

学部生 **13,000**名(2,900)

大学院生 **9,600**名(2,900)

[留学生 **2,900**名]

()は女子学生



教職員数
Faculty and
staff members

8,020

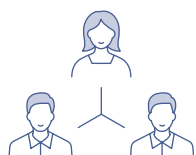
名

教員 **3,500**名(600) 研究員 **520**名(160)

職員 **4,000**名(2,700)

[外国人教職員 **500**名]

()は女性



組織
Organization



学部
Faculties

10



大学院
Graduate schools

18



附置研究所
Research institutes

12



その他の
研究・教育組織
Centers & other organizations

19



その他の
学内組織
Other campus organization

7



キャンパス数
Campuses

京都に3箇所
(吉田・宇治・桂)

3



**国内の研究所
附置研究施設等**

Off-campus research and
education facilities in Japan



44



栄誉

Award winning research

ノーベル賞

11名

フィールズ賞

2名

ラスカー賞

5名

ガウス賞

1名

チャーン賞

1名



財務状況

Finance condition

総事業費（受入額）

1,881億円



保有特許

Patents

3,135件

国内 1,458件

国外 1,677件



同窓会

Alumni associations

国内

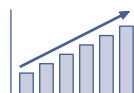
56

海外

31

学部・研究科

50



京大発 ベンチャー創出数

Startup

273社

さらに詳しく知りたい方は以下の刊行物をご覧ください。

データから見る京都大学

www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/data



京都大学概要

京都大学概要は、各年度時点の本学の組織、沿革、各種データ等をまとめた冊子です。

アカウンタビリティレポート

アカウンタビリティレポートは、エビデンスベースの大学運営を支援するために必要なデータをまとめた冊子です。



意欲ある学生が国内外から集う大学に

「学びたい」をあらゆる面からサポート

大学院生への支援

2021年に設置した大学院教育支援機構では、専門領域の壁を越え、多様化する社会ニーズに応える人材を育成するため、「産学協同教育コース」「教育能力向上コース」「グローバル生存学コース」「デザイン学コース」「数学・数理科学イノベーション人材育成強化コース」を開設し、約180名のコース登録者が学んでいます。修了者は総長名の修了認定書を得て、将来の幅広いキャリア形成に活かすことができます。

2023年度から、本学卒業生や修了生が活躍する企業からの寄附を受け、極めて優秀な大学院生向けに企業寄附奨学制度（DDD）を開始しました。本制度は、民間企業との積極的な交流による、産学協同教育の発展、業界理解の促進も目指しており、キャリア形成、研究の発展を目的に、賛同企業との交流会も開催しています。2024年度は9社からご支援をいただいています。

昨年度の交流会 Kyoto University Career Networking Festa!には奨学生に加えて、自身の専門知識や能力を社会で発揮することを志す大学院生や学部生も多く参加しました。参加学生には、奨学生による研究発表や、研究職として企業で活躍するOJOBからのフィードバックを通じて最新の産業動向や技術トレンドに触れ、将来のキャリア形成に役立つ貴重な経験を積む機会となっています。

また、「大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金」制度により、フィールド調査や、国際学会での研究発表、海外での共同研究、研究指導を受けるなどの目的で大学院生が渡航する費用を支援しています。コロナ禍が落ち着いたを見せるなか、大学院生の渡航意欲は急激に高まっており、これらのニーズに応える取組を進めています。2023年度は58名の学生を支援しました。



卓越大学院プログラム

www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/curriculum/educational-program

「卓越大学院プログラム」とは、文部科学省が2018年度より公募を開始したプログラムで、各大学が自身の強みを核に、これまでの大学院改革の成果を生かし、国内外の大学・研究機関・民間企業などと組織的な連携を行いつつ、世界最高水準の教育力・研究力を結集した5年一貫の博士課程学位プログラムを構築することで、あらゆるセクターを牽引する卓越した博士人材を育成するとともに、人材育成・交流および新たな共同研究の創出が持続的に展開される卓越した拠点を形成する取組を推進する事業です。

京都大学では「先端光・電子デバイス創成学卓越大学院プログラム」「メディカルイノベーション大学院プログラム」「社会を駆動するプラットフォーム学」の三つが採択されており、社会的課題の解決に挑戦して、社会にイノベーションをもたらすことができる博士人材を中心とする高度な「知のプロフェッショナル」の育成に取り組んでいます。



先端光・電子デバイス創成学



メディカルイノベーション
大学院プログラム



社会を駆動するプラットフォーム学
卓越大学院プログラム

優秀な留学生の積極的な獲得

Kyoto iUP (Kyoto University International Undergraduate Program) www.iup.kyoto-u.ac.jp/

優秀な学部留学生の受け入れを拡充するうえで、これまで入学段階での日本語能力が大きな課題となってきました。京都大学が実施する Kyoto iUP (Kyoto University International Undergraduate Program) では、入学段階での日本語能力を一切問わず、入学決定後に徹底した日本語教育を継続的に実施し、専門教育段階から日本語で講義等を行うことで、日本語で学部卒業レベル（あるいは修士課程や博士後期課程修了レベル）の専門知識を獲得した留学生を育成しています。この取組によって、単に言葉の壁を取り除き、世界中からトップレベルの留学生を学部段階から受け入れるだけでなく、企業や大学における先端的研究・開発が英語以外の言語で行われるという世界的にも稀な我が国の特性に対応し、グローバル展開を図る日本企業および日本経済そのものを牽引できる、きわめて高度な外国人留学生の輩出と日本社会への定着に貢献していきます。



KUSTAR (Kyoto University Short-Term Academic Research Program)

国策としてインドからの高度人材獲得が急がれる中、本学は独自の取組として KUSTAR (Kyoto University Short-Term Academic Research Program) をスタートしました。インドトップ大学であるIIT (Indian Institutes of Technology) 各校から18名を、2か月間にわたり短期インターンシップ生として受け入れます。将来の本学大学院への進学、そして日本及び世界の産学を牽引するグローバル人材の育成に繋げて参ります。



ウクライナ学生への支援:ウクライナ危機支援基金

www.kikin.kyoto-u.ac.jp/contribution/ukraine/

ウクライナからの一時的な学生受け入れを可能とする特別措置（授業料免除等含む）を継続するとともに、生活支援についても関係機関と連携しながら実施しています。
更に必要な経済的支援を実施するために2022年に広く社会から寄附を募る基金を立ち上げたところ、多くの方々からご賛同のご寄附をいただき、現在も引き続きご支援をお願いしています。



学生への留学支援:京都大学安藤忠雄国際奨学金

www.kyoto-u.ac.jp/ja/education-campus/student-3/scholarship/ando-international-scholarship

海外留学にチャレンジする本学学生を支援するため、建築家 安藤忠雄氏のご寄附を原資とした本学独自の奨学金を2022年に創設し、海外での貴重な経験による成長を後押ししています。



「知の創造」を柔軟かつダイナミックに支援

京都大学学術研究展開センター（KURA）

研究力の向上を図るためには、グローバルな視点で学内外の研究動向を十分に把握したうえで研究者間の橋渡しを行い、研究活動を活性化できるリサーチ・アドミニストレーター（URA）が不可欠です。本学では、KURAの設置を通じて、高度な専門性を持つURA人材を育成する体制を整備するとともに、融合研究の推進と研究力強化、研究の国際化、産官学連携および大学経営戦略の企画・立案にかかる支援などを一層強化しています。



京都大学アカデミックデイについて
research.kyoto-u.ac.jp/academic-day/



京都大学アカデミックデイの開催

大学内外の垣根を越えて、誰もが学問の楽しさ・魅力に気付くことができるイベントで、2011年度より毎年開催しています。研究者が国民の声を研究に反映できるように、KURAでは研究者と国民の「対話の場」を提供するだけでなく、研究者が研究活動をわかりやすく説明できるようきめ細かなサポートも行っています。2023年度は9月24日（日）に、アカデミックデイ単独では初めて、ゼスト御池（京都市役所前地下街）で開催。研究者と立ち話、ちゃぶ台囲んで膝詰め対話、お茶を片手にトーク◎トーク、研究者の本棚という4つの企画で彩られた会場では、出展研究者132名、来場者880名（受付通過人数）による直接対話が随所で繰り広げられ、過去最高の盛況となりました。

2024年度は9月21日（土）にゼスト御池で、11月2日（土）に京都大学百周年時計台記念館で、2回にわたって開催予定です。

学内ファンド:いしずえ

科学研究費補助金（科研費）は、基礎から応用まで様々なステージや規模の学術研究を助成するために、研究者に対して提供される公的な資金です。いしずえは、その科研費申請において、より規模が大きい申請種目へのステップアップを目指しながらも残念ながら不採択だった研究者を対象に、不採択年度間の研究資金を支援する京都大学独自のファンドです。いしずえがセーフティネットとなって科研費への挑戦を後押ししたり、科研費が受けられなかった期間も途切れることなく研究を続けられるように支援しています。さらに、KURAでは、そうした資金面の支援だけでなく、申請にかかる研究構想の相談や申請書の作成支援まで、きめ細やかな支援を行っています。

いしずえは2013年に開設されて以来、研究フェーズや年齢層に応じた効果的なファンド構築を目指して、毎年改良を加えながら運営してきました。今後も、限られた学内予算をより効果的に活用できるよう、改善を重ねながら研究者のさらなるステップアップを支援していきます。

創造的な研究のさらなる発展を目指す研究者の科研費獲得を研究資金面から後押し

- 科研費申請において残念ながら不採択だった研究者に、次年度の科研費申請への再挑戦と、科研費採択後のスムーズな研究開始・研究加速をサポート
- プレアワード支援事業とも連携し、研究内容にまで踏み込んだきめ細やかな支援を実施

いしずえ支援実績（過去5年間）

2020年度 43件（翌年度科研費17件採択、翌々年度科研費13件採択）
2021年度 40件（翌年度科研費16件採択、翌々年度科研費7件採択）
2022年度 56件（翌年度科研費18件採択）
2023年度 43件
2024年度 71件



KyotoU Future Commons

京都大学の研究活動と社会貢献を結びつけるためのハブサイトを2023年に公開しました。このサイトでは、環境保全、生物多様性、防災、再生可能エネルギーなど、本学研究者が中心になって進める多様な研究成果やプロジェクトを紹介し、それらが社会課題の解決にどのように貢献しているかについてまとめています。

大学の研究者が取り組むプロジェクトを広く公開することで、企業、自治体、一般の人々と連携するためのプラットフォームとなり、同じ課題意識を持つ企業や自治体と研究者との連携を広げて、新たな研究プロジェクトの創出を目指しています。

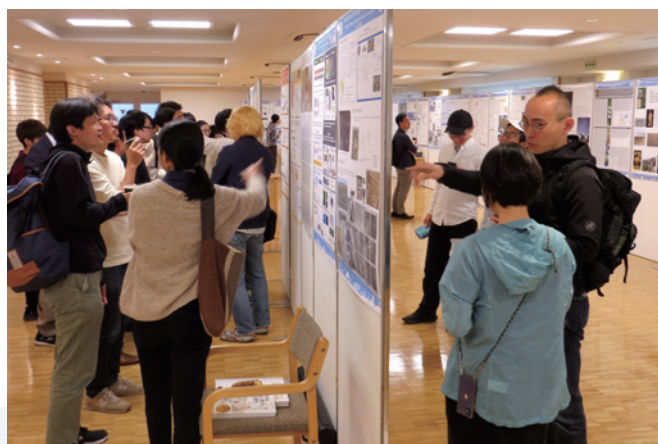
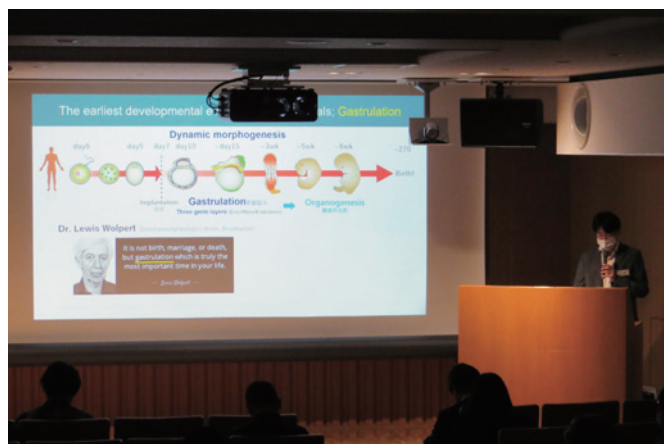
KyotoU Future Commons ウェブサイト
commons.research.kyoto-u.ac.jp/



若手研究者の採用促進：白眉プロジェクト

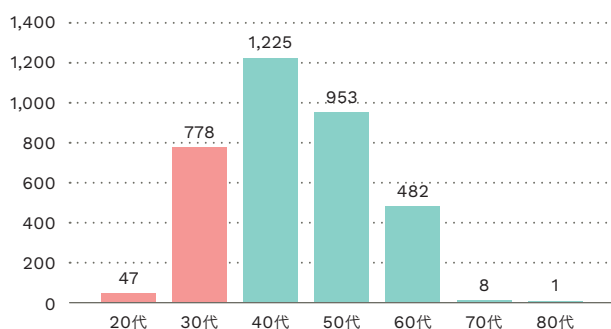
自由闊達で独創的かつ挑戦的な課題研究に取り組む若手研究者に、自由な研究環境を与えて支援する「白眉プロジェクト」は、創設以降、10余年にわたり京都大学独自の取組として実施しており、国内外から高い評価を受けています。

学術領域を問わず世界中から若手研究者を募り、これまでに採用された白眉研究者の総数は2024年4月現在で233名（文部科学省「卓越研究員事業」を活用した20名を含む）に上り、多種多様な分野の研究者がそれぞれの研究を恵まれた環境で実施し、将来を見据えた幅広い視点と好奇心に根ざした独自の研究を実施しています。



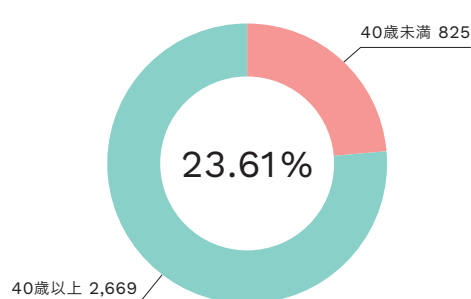
年代別定員内・特定教員

2024年度



40歳未満の定員内・特定教員の割合

2024年度



データ基準日:2024年5月1日 出典:DWB

※特定研究員、外国人教師及び招へい研究員並びにTA・RA・OA等学生の雇用者を除く。



すべての多様性を輝かせるために

あらゆる多様性の尊重

優秀な女性研究者を育成・獲得することは、知の創出をリードする研究大学として重要な課題です。また、性の多様性や、様々な国・地域出身の方の文化・慣習の理解と尊重、さらに、何らかの障害や心身の状態、家庭環境等で学修や研究・職務に不自由のある方など、あらゆる多様性と公平性を尊重し、包括的な教育研究環境・キャンパス環境整備を推進しています。



女性研究者・学生の顕彰

「京都大学たちばな賞」や「京都大学久能賞」の授賞も、若い女性研究者の励みとなり、受賞者が後に学外の重要な賞を獲得するなど、確実なステップアップを実感しています。また、2021年には、各方面でご活躍の京都大学出身の女性を対象に「京都大学このえ会」を設立してネットワーク構築を図り、女子学生・研究者への支援と女性活躍機会拡大や課題解決に取り組んでいます。

ダイバーシティ推進に向けた取組の強化

www.kyoto-u.ac.jp/ja/news/2022-04-01-0

京都大学男女共同参画推進アクションプラン(2022年度～2027年度)では、特に女性研究者の育成・獲得を重点事項として掲げ、①全学の女性教員比率(特定教員を含む)を2027年度に20%とする、②役員会構成員の女性比率を2027年度に25%とする、という数値化した達成目標を設定し、実現に向けた各種取組を定めています。また、男女共同参画推進センターでは2022年度から四つの専門部会を設置して各種取組を一層強化し、例えば育児・介護支援では保育園入園待機乳児保育室の設置やベビーシッター利用育児支援、医学部附属病院と連携した病後児保育の実施など多様な制度の充実を図っています。



京都大学キッズコミュニティ KuSuKuの開設

本学では育児中の教職員・学生が安心して働け、また研究できる環境支援に、積極的に取り組んでいます。2023年12月には、京都大学在籍の教職員及び学生を対象に、小学1年生から6年生までを預かる学童保育所KuSuKu(クスク)を開設しました。KuSuKuは、「親を育む」「子を育む」をコンセプトに、研究者が安心して子どもを預けて研究に専念できるよう、土日祝日や夏休みなどの長期休みに開所しています。また、子どもたちには京都大学の研究リソースを活用したアカデミックプログラムを提供し、好奇心や探究心を育む場を提供しています。





女子中高生への応援 www.cwr.kyoto-u.ac.jp/for_girl/

本学の魅力を女子中高生や保護者の方々に伝える取組も積極的に行っています。毎年開催している「女子高生 車座フォーラム」のほか、「女子高生応援大使」の出身高校への派遣や、「出前授業」「オープン授業」も実施し、2022年から発行している広報誌『京からあすへ』や男女共同参画推進センターのホームページで、ロールモデルとなる女性研究者やOG 社会人を紹介しています。



京都大学ここのえ基金 www.kikin.kyoto-u.ac.jp/contribution/kokonoe/

ジェンダー平等をはじめとするダイバーシティ社会の実現は、多様な視点の共存と相互の寛容性に基づく創造的で豊かな社会の基礎であり、次世代の育成を担う大学はその中核としての役割を求められています。京都大学においても、優秀な女性研究者・女子学生を育成することは、自由の学風の下で創造的な知の創出をリードする研究大学としてさらに発展すると同時に、日本全体のダイバーシティに貢献するうえで重要な課題です。未来を担う女性たちがビジョンを持って才能を発揮できるよう、多くの機会を提供し、支援を強化していくため、ご協力をよろしくお願いいたします。



障害のある学生への支援 www.assdr.kyoto-u.ac.jp/drc/

京都大学において、学ぶことや研究することに障害（社会的障壁）が生じた時、どのような解決策や選択肢があるでしょうか。学生総合支援機構 障害学生支援部門（DRC）が、障害のある学生やその周囲の教職員、受験希望者の相談に応じています。専任スタッフが相談を受け、授業などでの合理的配慮の調整やノートテイク・移動介助等学生サポーターの派遣、AT（支援技術）の提供など、各種修学支援を行なっています。これらの活動が評価され、2023年9月5日、「障害者雇用優良事業所等京都府知事表彰」を受賞しました。



障害学生支援ガイドブック

京都大学における障害学生支援のシステムやDRCの紹介、各種障害に関する基礎的な知識・支援方法などを整理し、冊子として教職員に配布しています。実際に障害のある学生に対応する必要がある場合には、その都度、個別に相談していくことになりますが、手がかりとして活用しています。

フリーアクセスマップ

DRCでは従来のものとは少し異なる視点で情報を表示する方法を考え、マップを作成し配布しています。本マップは、主に車椅子利用者などの移動困難者の目線で作成したもので、従来のように道筋や設備の使用を限定し指示するようなものではなく、目的地までのバリア（障壁）を適切に表示することで、自らのスキルに合わせて道筋などを選択できるような形式にし、ネーミングも「フリーアクセスマップ」としています。



障害のある学生の支援リソースリスト(京都市版)

障害のある学生は、大学等による修学支援に留まらず、生活支援など地域リソースを利用することが少なくありません。DRCでは生活に関する相談窓口、就労に関する相談窓口などの情報を集約し、「障害のある学生の支援リソースリスト/マップ」を作成しました。利用可能なリソースが様々ななかで、ご自身の状況にあった機関を見つける参考にいただけます。

上記のコンテンツは、DRCのウェブサイトで公開しています。 www.assdr.kyoto-u.ac.jp/drc/contents/



社会と手を取り合って、よりよく生きられる未来を

成長戦略本部の発足



本学は2024年4月1日に、研究力強化のために財政基盤を確立させ、自律的な大学組織への構造改革を進める「成長戦略本部」を新設しました。同本部は、これまでの、産官学連携本部、オープンイノベーション機構、渉外部基金室、医学領域産学連携推進機構などを統合した新たな組織です。今後とも、研究成果の事業化やスタートアップ支援などを通じて新たな価値を創出するとともに、本学と社会とのコミュニケーションを深め、寄付などの資金の獲得活動を強化します。これらの資金を大学に還元し、さらに自由で自律した研究活動の展開へとつなげ、大学の持続的成長を実現していきます。

京大グループ会社との協働によるワンストップ型情報プラットフォームの構築

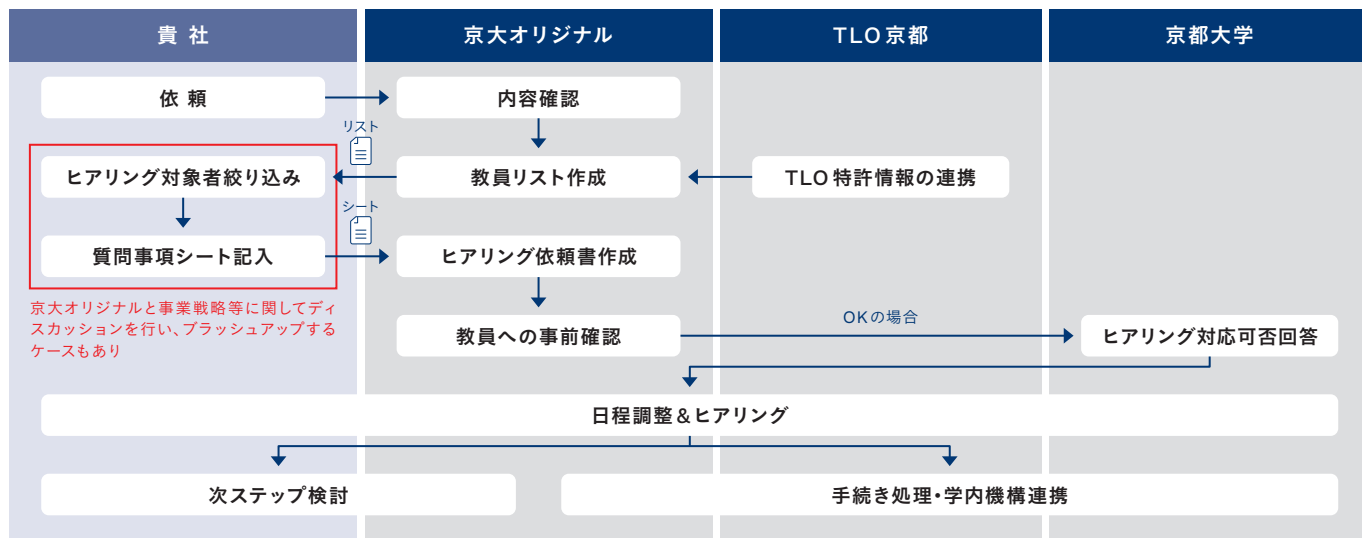


「大学が保有する特許を利用した製品を開発したい」「有望な京大発ベンチャー企業と事業を展開したい」「大規模な共同研究プロジェクトを実施したい」など、企業からの様々なニーズに迅速に対応するため、京都大学では2021年度に産学連携情報プラットフォーム「Philo (フィロ)」を構築しました。同プラットフォームは教員および研究者はもとより、知的財産管理を統括するチームや、シード&スタートアップベンチャーへの投資チームとも連携しており、最新技術のタネにアクセスすることができます。主管は成長戦略本部、京大グループ会社である京大オリジナル株式会社、株式会社TLO 京都・京都大学イノベーションキャピタル株式会社、iPSアカデミアジャパン株式会社の連携のもとで運営しています。発表以来、定期的に問い合わせがあり、実際に案件化された事例も複数あります。

産学連携情報プラットフォーム「Philo」 philo.saci.kyoto-u.ac.jp/



協業に向けた対応とお問い合わせには、京都大学の100%子会社である京大オリジナル株式会社がワンストップの窓口となって、京都大学内のさまざまな教員・研究者と連携し、プロジェクトの組成はもちろん、中長期的なパートナーとして並走します。



三菱商事株式会社から本学への寄附による新たな起業支援プログラムを開始



本学の研究成果を活用したスタートアップの創出を強化するため、このたび三菱商事株式会社からのご寄附により、起業を目指す本学の研究プロジェクトに資金援助を行う起業支援プログラム「京都大学・三菱商事 Startup Catapult」を開始することとしました。

本学の研究領域としては複数のノーベル賞受賞者を有するライフサイエンス/ヘルスケアが高い評価を得ていますが、そのほかにも世界的な社会課題である脱炭素を実現するための研究領域であるエネルギーや素材、食料、情報通信、モビリティなどについても世界トップクラスの研究成果が生まれています。

「京都大学・三菱商事 Startup Catapult」では、京都大学が強みを発揮できるこれらの分野を中心に、幅広い領域においてスタートアップを創出することを目指しており、さまざまな社会課題の解決に寄与することを目的としています。

シンガポールにおいて「InnoVision from Kyoto University」を開催

産学連携分野における初の本格的な海外シンポジウムとなる「InnoVision from Kyoto University : Seeing the Future through Innovation」を、2024年1月19日に、京都大学イノベーションキャピタル株式会社との共催により、シンガポールのSands Expo & Convention Centerで開催しました。今回のシンポジウムは、本学の研究成果の実用化促進や本学関連スタートアップの成長加速を目的として、シンガポールだけでなくインドネシアやマレーシアなどASEAN諸国の投資家、事業会社を招待して開催しました。シンポジウムの大きな特徴は、本学関連スタートアップと現地投資家、事業会社とのマッチングに力を入れたことです。Well-Being、Carbon Neutrality、Deep-Techの3つのセッションに合計14のスタートアップが登壇しました。メイン会場とは別にミーティング用の部屋を4つ設け、スタートアップと現地企業との1 on 1ミーティングを実施しました。本学によるこのようなシンポジウム開催は現地でも強い興味を引き、想定していた150名を上回る約180名が来場し、スタートアップとの1 on 1ミーティングには約100件の申し込みがありました。懇親会では、最後までスタートアップと参加者とのデカッションが続きました。今後も、ASEAN諸国での活動を強化していく方針であり、継続して今回のようなシンポジウムを開催していきます。



京大発ベンチャーは、ヘルスケア・バイオ・素材・エネルギーなどニーズの高い領域で、本学の研究成果を生かし、時代に先駆けた取り組みを行っています。京都大学の100%子会社である京都大学イノベーションキャピタル株式会社(京大iCAP)はこのような京大発ベンチャーの支援に取り組んでいます。

aceRNA
Technologies

Ocean Eyes

Space Power Technologies

SHINOBI
THERAPEUTICS

ENECOAT

京都創薬
Kyoto Drug Discovery & Development

世界トップレベルの大学・研究機関との戦略的な学術連携

より実質的で恒常的な国際共同研究の強化へ

本学は、海外における研究や教育及び学生や教職員の国際交流を支援する国際活動拠点として、全学海外拠点（ドイツ、タイ、米国）を含め世界各国に数多くの海外拠点やフィールドステーション等を設置しています。

また、世界各国の主要大学・機関と学術交流協定（MOU）を締結するとともに（176大学2大学群16機関）、世界に卓越した大学のうち、活発な研究交流を分野横断的に展開させ、新たな学術分野での共同研究や人材の流動性を促進するため、学長（執行部）レベルでの合意に基づいて連携を強化していく「戦略的パートナーシップ校」にボルドー大学など5つの大学を認定しています。

さらに、海外の大学や研究機関等と共同で設置する現地運営型研究室「On-site Laboratory」を運営し、海外機関等との活発な研究交流や世界をリードする最先端研究を推進するとともに、優秀な外国人留学生の獲得、産業界との連携の強化等、本学が世界の有力大学に伍して第一線で活躍するための基盤や体制を強化しています。



大学間学術
交流協定

194

戦略的
パートナーシップ校

5

海外拠点等
(部局設置)

60

On-site
Laboratory

11

(2024年4月1日現在)



ボルドー大学－京都大学 戦略的パートナーシップ シンポジウム 2024
(2024年3月4日－6日)



東南アジア諸国連合(ASEAN)事務総長一行の来学
(2023年10月25日)

新医療の創造で世界を牽引する

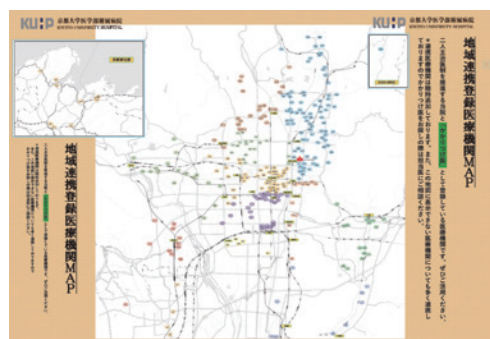
研究と臨床、地域と医療、いまとこれからをつなぎながら

研究成果をいち早く臨床へ、高度先進医療を患者さんの元へ

医学部附属病院の手術件数は年間1万件を超え、国立大学病院としてトップクラスを誇ります。高度な手術も多数行っており、中には2023年11月の生体肺肝同時移植手術の実施報告のように当院が世界で初めて実施した手術もあります。また、未来の医療を創造することも私たちの使命です。2020年に設立した先端医療研究開発機構では、早期臨床試験に特化した組織（Ki-CONNECT）を設置し、iPS細胞などを用いた新たな医薬品、治療方法を、1日でも早く患者さんに届けるために日々研究、開発に取り組んでいます。



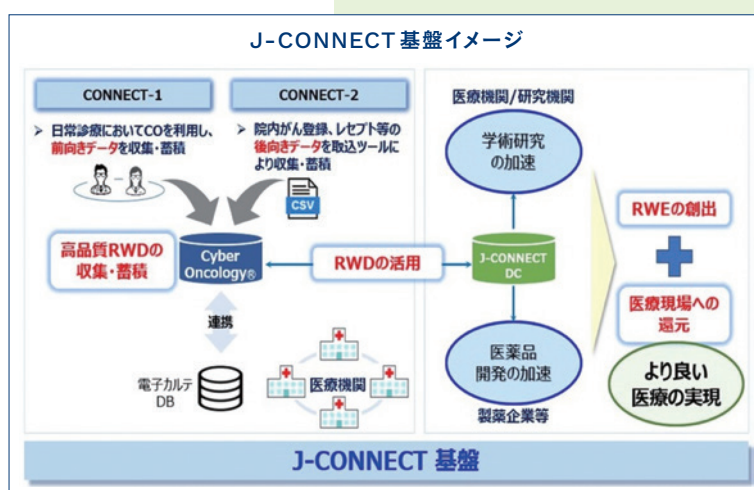
地域医療連携の充実



一方で、地域における当院の役割も重要です。当院では、各医療機関が有する医療機能を活用し、高度な医療を地域の患者さんに提供することを目的として、地域のかかりつけ医と当院医師による「連携主治医制」を積極的に推進しています。また、本取組みに賛同いただける医療機関を当院の「地域連携医療機関」として登録し、希望される医療機関には「地域連携医療機関登録証」を発行しています。（2024年4月末現在688機関）

J-CONNECTの創設及び後向き大規模リアルワールドデータ収集(CONNECT-2)の開始

本院は、新医療リアルワールドデータ研究機構株式会社と共同で、医療機関及び製薬企業による新たな研究基盤であるJ-CONNECTを2023年4月に創設いたしました。各医療機関で収集・蓄積された、がん治療における高品質なリアルワールドデータ（以下『RWD』）の運用管理及び利活用により、これまで構造化して収集することが困難であった医薬品使用における有効性や安全性に関する情報を含め、その評価を通じ新たなリアルワールドエビデンスの創出につなげていきます。





躍動するスピリッツ、深め合う絆

本学の公認団体として、体育会所属の運動部・団体が54団体、体育会に所属していない体育系サークルが31団体、文化系サークルが98団体あります。そのほか、多くの課外活動学生団体が熱心な活動を行っています。

硬式野球部

硬式野球部は、2023年春には水口創太投手が福岡ソフトバンクホークスに入団し、部員の士気も高まっています。アナリストとして阪神タイガースに入団した三原大知スタッフを筆頭に始まった、最新機器を用いたチームの強化が着実に実を結びつつあります。2024年春季リーグ戦では、外野手の山本陶二さんが首位打者とベストナインに、遊撃手の細見宙生さんもベストナインに選出されました。



男子・女子ラクロス部

男子ラクロス部は、関西学生リーグ戦1部優勝8回、全日本大学選手権準優勝4回を誇り、本学の体育会の中でも好成績を残しています。女子ラクロス部は、全員が大学からラクロスを始めますが、2022年度には創部以来30年の悲願を達成し、関西学生リーグ戦1部への昇格を決め、新たなステージで躍動しています。



ヨット部

約90年の歴史を持つ京大ヨット部は、表彰台に登ること35回と華々しい結果を残してきました。2023年、小戸の海にて470級入賞、そして約50年ぶりの快挙となる、3年連続の総合入賞を果たしました。同部の鈴木亮太朗さんは、全日本学生ヨット個人選手権において準優勝、全国七大学総合体育大会ヨット競技においてMVPを受賞するなど国内の主要大会にて数多くの好成績を収めました。



photo by Fumina Moriguchi / Kazi

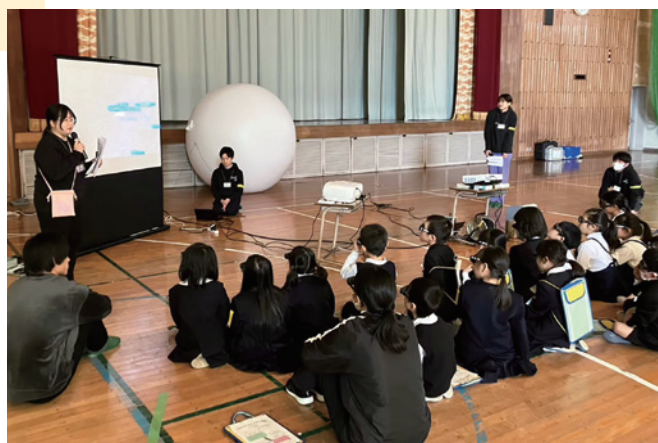
交響楽団

京都大学交響楽団（京大オケ）は、1916年の創設以来、100年以上の歴史をもつ学生オーケストラ団体です。常に音楽に対して真剣に取り組み、より良い音楽を届けることを目的とし、日々研鑽に励んでいます。年2回の定期演奏会のほか、他大学の学生オーケストラ団体との合同演奏会なども行っているほか、本学の卒業式や入学式の演奏も担当しています。



天文アウトリーチ学生団体あすちか

理学部の学生が中心となって2023年にスタートした「あすちか」。「天文学 (Astronomy) をみぢかに」を合言葉に、主に小学生に向けて天文教室や観望会を開催しています。さまざまな学習ツールを活用し、能動的に楽しんで学んでもらえるよう工夫しています。企画から活動資金獲得、運営までを学生主体で行っているのも特徴で、昨年度は3校の小学校で活動しました。

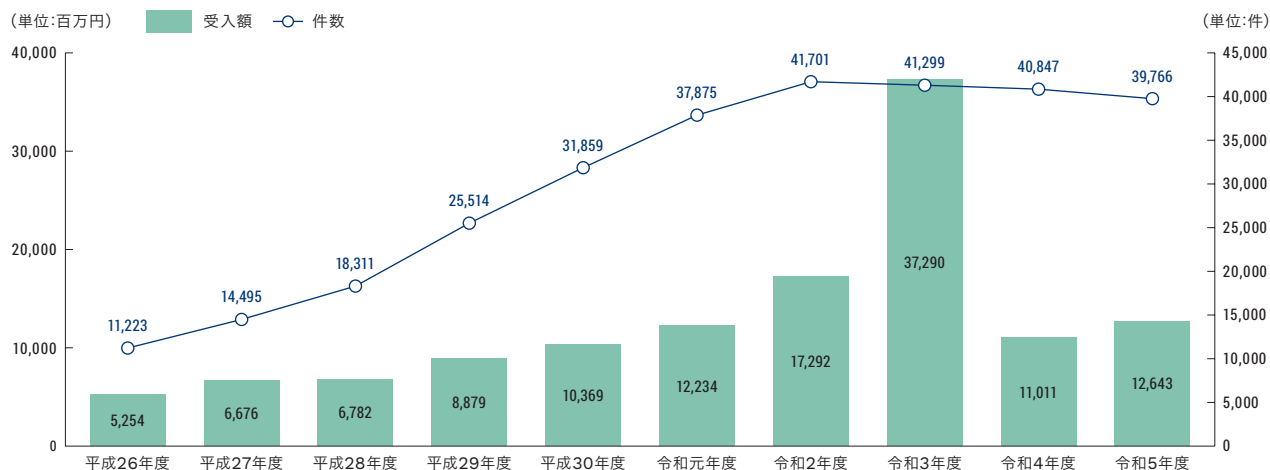


iGEM Kyoto

京都大学の学部生による研究チーム「iGEM Kyoto」が、2023年11月2日から5日までフランス・パリで開催されたiGEM 2023 GRAND Jamboreeに出場し、金賞を受賞しました。また同時にBest Agriculture Project、Best Wiki、Best Hardwareの各最終候補にもノミネートされ、チーム始まって以来の最高の成績を達成しました。iGEM (International Genetically Engineered Machine competition) は、2003年から米国で開催されてきた合成生物学の学生研究コンテストです。iGEM Kyotoは、Avoideerと題したプロジェクトに取り組み、農作物に対する鹿による食害を合成生物学の力で防ぐ研究を行いました。遺伝子組換え実験に加えて、数理モデリング、ハードウェアの作成、高校生への教育活動など、幅広い活動が高く評価されました。



寄附金

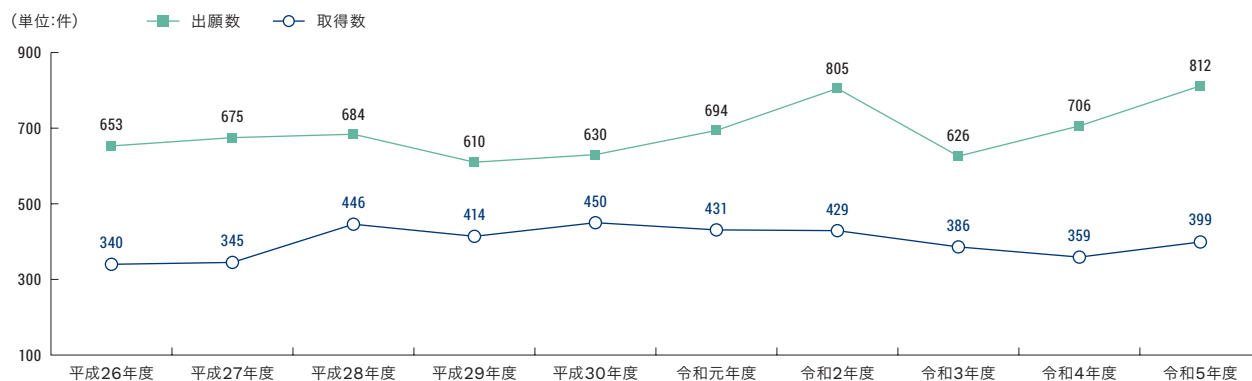


知的財産の活用

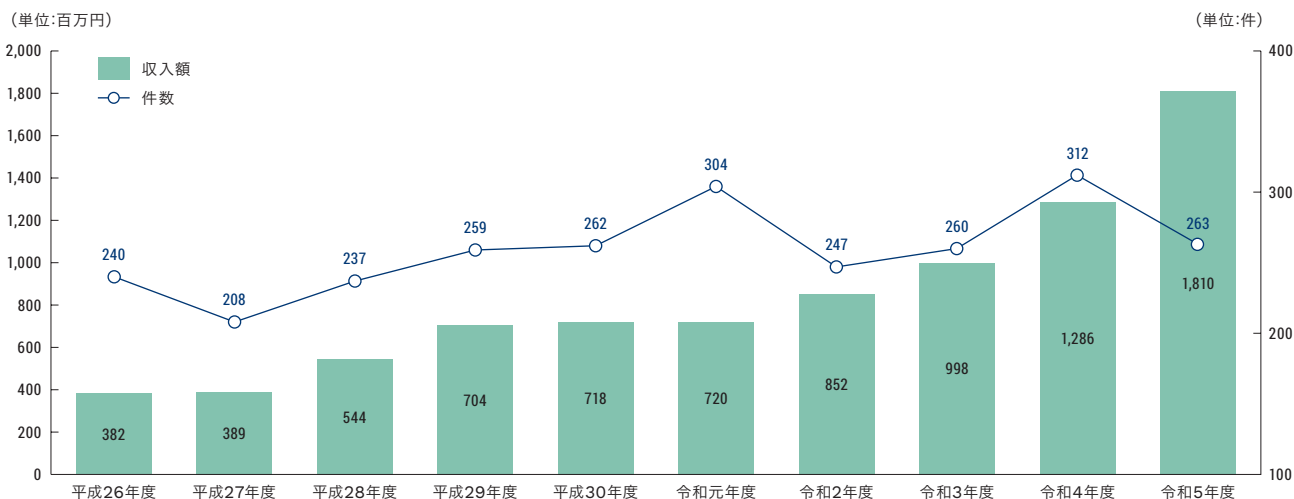
知的財産の活用に向けた取組

京都大学では、研究成果の実用化を促進するため、発明届出時の段階から、成長戦略本部と株式会社TLO京都をはじめ、学内外の関係組織と連携し、知的財産支援などの活動を推進しています。技術分野や発明ごとに研究の背景や周辺状況、発明の特許性や特許ポートフォリオ、市場調査などの結果を踏まえつつ、知財管理や技術移転、国家プロジェクトや複数企業からなる研究コンソーシアムにおける知財マネジメントならびに京大発ベンチャーに対する知財支援などの活動を推進しています。

特許出願数および取得数の推移



特許権等収入額および件数の推移



貸借対照表の概要

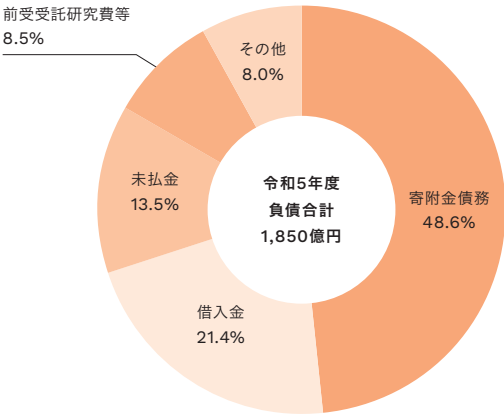
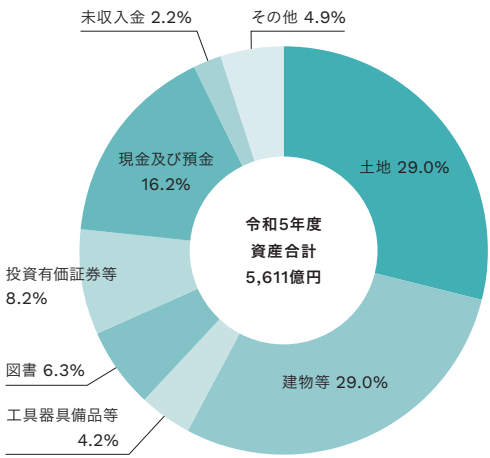
(単位:億円)

資産の部	令和4年度	令和5年度	増減
土地	1,629	1,628	△1
建物等	1,603	1,626	23
工具器具備品等	229	236	7
図書	354	356	2
建設仮勘定	41	3	△38
投資有価証券	248	322	74
関係会社有価証券	124	142	18
長期性預金	30	20	△10
現金及び預金	957	908	△49
金銭の信託	130	191	61
未収入金	133	125	△8
その他	64	54	△10
資産合計	5,542	5,611	69

(単位:億円)

負債の部	令和4年度	令和5年度	増減
寄附金債務	875	899	24
借入金	413	396	△17
未払金	212	250	38
前受受託研究費等	130	157	27
その他	186	148	△38
負債合計	1,816	1,850	34
純資産の部	令和4年度	令和5年度	増減
資本金	2,682	2,682	0
資本剰余金	42	44	2
利益剰余金	293	994	701
当期末処分利益・未処理損失	709	41	△668
純資産合計	3,726	3,761	35
負債・純資産合計	5,542	5,611	69

※令和4年度の当期末処分利益には、国立大学法人会計基準等の改訂に伴う影響額(臨時利益:705億円)を含んでいます。



※「投資有価証券」、「関係会社有価証券」は投資有価証券等を含んでおります。
 ※「建設仮勘定」、「長期性預金」及び「金銭の信託」はその他を含んでおります。

キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位:億円)

	令和4年度	令和5年度	増減
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	176	192	16
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	△319	△315	4
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	△15	△26	△11
IV 資金増加額(又は減少額)	△158	△149	9
V 資金期首残高	756	597	△159
VI 資金期末残高	597	448	△149

損益計算書の概要

(単位:億円)

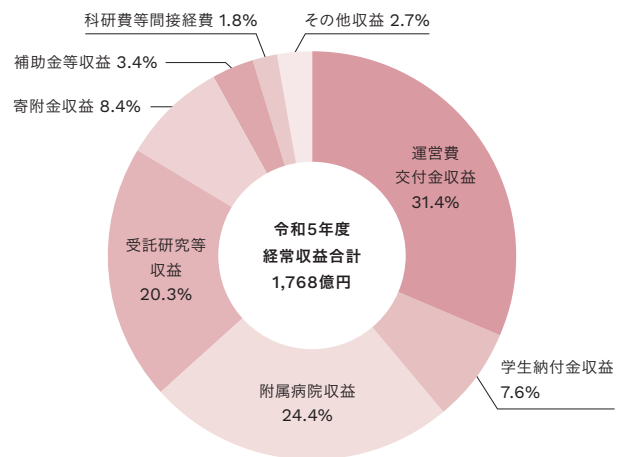
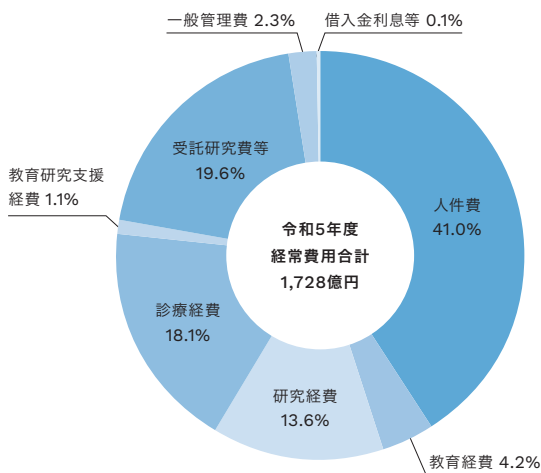
	令和4年度	令和5年度	増減
経常費用			
人件費	703	708	5
教育経費	69	72	3
研究経費	223	235	12
診療経費	302	313	11
教育研究支援経費	15	19	4
受託研究費等	359	339	△20
一般管理費	38	40	2
借入金利息等	2	2	0
経常費用合計	1,711	1,728	17
臨時損失	3	16	13

計	1,714	1,744	30
---	-------	-------	----

(単位:億円)

	令和4年度	令和5年度	増減
経常収益			
運営費交付金収益	552	556	4
学生納付金収益	135	135	0
附属病院収益	414	431	17
受託研究等収益	359	358	△1
寄附金収益	99	149	50
補助金等収益	82	60	△22
科研費等間接経費	31	32	1
その他収益	32	47	15
経常収益合計	1,704	1,768	64
臨時利益	706	14	△692
目的積立金等取崩	13	3	△10
計	2,423	1,785	△638
当期総利益(損失)	709	41	△668

※ 令和4年度の臨時利益及び当期総利益の金額には、国立大学法人会計基準等の改訂に伴う影響額705億円を含んでおります。



利益の処分にに関する書類

(単位:億円)

	令和4年度	令和5年度	増減
I 当期末処分利益(当期総利益)	709	41	△668
II 利益処分額			
(1) 積立金	690	34	△656
(2) 教育研究等積立金	19	7	△12

※ 令和4年度の当期末処分利益(当期総利益)の金額には、国立大学法人会計基準等の改訂に伴う影響額705億円を含んでいます。
教育研究等積立金は、文部科学大臣による利益処分の承認後、中期計画で定めた剰余金の使途に使用できるものです。

多彩なプロジェクトによって「京大力」を未来へ

支援者の皆様の期待に応えつつ、基金の有効活用と拡充を図る

京都大学基金へのご支援

京都大学では、支援者の皆様からの寄附金を本学の未来のために運用し、その運用益を拡充することを目指して2007年に「京都大学基金」を設立しました。現在、京都大学基金は、本学全体の教育研究・社会貢献のために活用する基金と、世界中から期待されているiPS細胞研究のさらなる発展のための「iPS細胞研究基金」や、若手研究者の後押しをする「本庶佑有志基金」、経済的困難を抱える学生を支援する修学支援基金など、特定のプロジェクトを支援するための基金(特定基金)から構成されています。同基金は設置以来、数多くの方よりご支援をいただいております。2023年度末現在、基金(特定基金含む)の受入残高は約593億円に達しています。この活用実績については「京都大学基金」のウェブサイトにおいて広く公開しています。また、クラウドファンディングなども活用し、医学部附属病院の新型コロナウイルス感染症対策などを支援しました。今後は、運用益の拡充に努めながら、産業界と学术界が相互に連携・協力し、多元的な課題の解決に挑戦する人材育成基金や、地球社会の調和ある共存に貢献するためのSDGs課題解決基金など、本学の卓越した知を活用した多様なプロジェクトを展開していきます。

京都大学基金のウェブサイト www.kikin.kyoto-u.ac.jp



株式会社京都製作所からの寄附による事業実施に合意

株式会社京都製作所(以下、京都製作所)より多額の寄附をいただき、本学において将来の機械系工学を牽引する優秀な若手研究者・技術者を育成するための支援事業を行うこととなりました。それに先駆けて、2024年1月31日に百周年時計台記念館において記者発表を行いました。大学の研究の国際競争力と発信力の低下が懸念される中、研究力のさらなる向上や将来の成長のためには、若手研究者を育成し研究活動を支援する、いわば「人への投資」が欠かせません。本事業は、京都製作所の支援のもと「人への投資」を基軸に、将来の科学技術・イノベーションを牽引する優秀な若手研究者の育成を推進する画期的な取り組みです。

今回の京都製作所からのご支援を通して、将来の機械系工学の発展の礎となる基礎研究を推進するとともに、その発展を担い、組織の壁を越えて協働できる優秀な研究者や技術者を育成・輩出することで、大学の知を産業界に繋ぎ、新たな価値の創出と社会課題の解決を目指します。



左から、湊長博 総長、橋本進 株式会社京都製作所代表取締役会長兼CEO



左から、立川康人 工学研究科長、稲垣恭子 理事・副学長、湊総長、橋本代表取締役会長兼CEO、木下喜平 株式会社京都製作所代表取締役社長兼COO、大西利幸 同常務執行役員

同窓会との積極的な連携

本学では、学部・研究科同窓会や地域同窓会、横断型同窓会など、各種同窓会組織との連携強化に取り組んでいます。

京都大学ここのえ会は、社会で活躍している本学出身の女性が相互の関係を深めながら、ネットワークを新たに構築するとともに、京都大学の女子学生や女性研究者等へ緩やかな支援を行うことを目的として設立され、本学女子学生向けのイベントなどを企画しています。

その他、本学では、従来より継続している同窓会の開催支援や毎年11月のホームカミングデイの開催などの活動のほか、同窓生向けオンラインサービス「KUON (Kyoto University One Network)」のコンテンツの充実に努めています。

京都大学KUONのサイト www.alumni.kyoto-u.ac.jp/



第18回京都大学ホームカミングデイを開催

第18回ホームカミングデイを、リアルイベントとオンラインのハイブリッド形式で開催しました。リアルイベントは2023年11月4日に開催し、同窓生(卒業生、修了生、元教職員)、教職員、学生、一般の方などのべ767名が参加しました。オンラインは2023年11月4日～30日に開催し、日本全国および海外も含め、1,247名のアクセスがありました。

百周年時計台記念館百周年記念ホールでは、卒業生で小説家の万城目学氏(法学部・2000年卒)による「京都を描くということ」と題した講演を行いました。学生時代の思い出や過去に本学で講演したときの話、また、久しぶりに京都を舞台に描いた最新作についての話がありました。音楽会では、京都大学応援団による演舞演奏、京都大学グリーククラブの合唱、京大合唱団と同窓会合唱団による合唱を行い、大きな拍手が湧き起こりました。そのほか、施設見学やスタンプラリーも実施しました。

オンラインコンテンツでは、リアルイベントにて撮影した講演会での湊総長の開会挨拶、音楽会での応援団の演舞と合唱の動画を配信しました。他にも、「京都大学白浜水族館探訪」では、普段見ることのできない水族館のバックヤードの紹介、「懐かしい京大生協食堂の今昔」では食堂の懐かしい写真や歴史を振り返って説明するコンテンツを掲載しました。



KYOTO
UNIVERSITY
ANNUAL REPORT
2024

発行：京都大学広報課（2024年9月発行）

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

TEL 075-753-7531（代表）

annual@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

www.kyoto-u.ac.jp



京都大学アニュアルレポートはウェブサイトにてPDFでもご覧いただけます。
www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/public/issue/annual-report

表紙：京都大学百周年時計台記念館

記念館の北側、ガラス張りの百周年記念ホール越しに望む時計塔。

時計塔の北側面には、地上から25mの位置に鋼鉄製の鐘がある。モーターでワイヤーを引っ張り、鉄のハンマーが鐘を打つ仕組みで、現在は8時、12時、18時と1日3回、時を告げる音色を響かせている。